

## 工業生産の振興についての意見書

日本学術会議第5部生産研究委員会(委員長 八木秀次博士)から「工業生産の振興についての意見書」が送られて参りました。新たに誕生した日本学術会議の使命につき幾々を啓発する所が多いと思ひ御紹介する次第です。(編集部)

### 日本学術会議の誕生とその使命

わが國を荒蕪より救ひ、健全な文化國家として更生させるためには、科学の力を最も有効に活用しなくてはならない。そのためには全國科学者の緊密な連絡協力を背景とする新組織を確立することが心須の條件である。この様な新組織として日本学術会議は生まれた。その目的とする所は日本学術会議法(昭和23年7月10日法律第121号)第2條に明記されている通り、わが國の科学者の内外に対する代表機關として、科学の向上発達を図り、行政、産業及び國民生活に科学を反映浸透させるにある。

この目的を達するために、日本学術会議の行方職務は、

(1) 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること、

(2) 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること(法第3條)であり、

更に政府の諮問を受け(法第4條)又政府に勧告することができる(法第5條)而して日本学術会議と緊密に協力し、科学技術を行政に反映させるためには法律第153号(昭和23年12月22日公布)に基ずく科学技術行政協議會が内閣に設けられている。

日本学術会議が持つ当面の重要任務は、如何に日本の学術をして經濟再建に役立たしめるかということにある。これに最も關係の深いのは工業生産の分野であり、学術会議としては工学部門を担当する第部である依つて第部においては生産研究委員会を設けて他の各種委員会と連繫を保ちつゝ生産増強対策を検討しつゝある。同委員会の活動は未だその緒についた許りであるが問題は甚だ重大であり、關係する所も非常に広いので左に同委員会の考えを述べて國民各位に訴え批判と協力を乞ふ次第である。

日本の現状にあつて貿易振興が重要課題であること、並びにそのためには能率よき生産と優秀な品質とを確保することが第一要件であることは今更説明を要しないであらう。然るに外國の事情が段々判明するにつれ、わが國の現状を顧りみてその余りの懸隔に誰しも驚く所である。わが國の諸般の事情の下にこの懸隔を急速に乗り超え、工業水準を先進諸國の域に迄引き上

げることは極めて困難である、併しそれを爲し遂げなければ熾烈な競争にある世界經濟の中にわが國の自立を図ることは到底できない今こそわれわれは事態の認識を深め、朝野を問わず反省の上に立つて國民一丸となり、困難ではあるが光榮ある努力を誓ふべきときであると思ふ。

### 官民並びに科學技術者に訴う

#### 1. 研究に対する國の政策について

日本經濟再建に対する科学技術の重要性については屢々説かれてきた。そして科学技術の基盤が研究にあることについて何人も異論のある筈がない。然るに國の政策として具体的にどんな処置がとられてたであらうか。政府予算中科学研究に充てられものが僅かに0.3%、國民所得に対する國の研究費の比率は、文部省の調べによれば0.146%昨年度にすぎない。アメリカでは一昨年度0.5%であるが、猶渺なしとして1%に迄増大すべしとの声が高い欧米では多年の経験から、研究は悪化せる財政状態から脱却する踏石であると信ぜられているのにわが國ではともすれば財政状態が悪いことを理由として研究費を削減し勝ちなのは如何なる根拠に基づくのであるかわれわれには了解し難い。

凡そ研究には基礎研究、應用研究、実用化研究工業化研究の區別乃至段階があり、日本經濟再建にとつてその何れも重要であるが日本の現状としては差当り特に弱体な実用化乃至工業化研究を助長する必要がある。

日本では基礎研究は相当行われたし、その水準も高位にあるといわれているのに対し、実用化乃至工業化研究に見るべきものが極めて少かつたことは、當然の帰結として今日の工業水準の低位をもたらしたと考えざるを得ない。実用化乃至工業化研究には莫大の資金を必要とするものが少なくなく國が行わなければ他で実施できないものもある。政府並に國會はその政策を予算の面に具体化しないで、これを如何にして実現しようとするのであらうか。われわれは事態の深き理解を望んで止まない。

#### 2. 企業經營方針について

科学技術が工業發展の原動力であり、工業研究に対

する支出は企業経営に最も有利な投資であることは廣く認められているにかゝらずわが工業界が正しくこれを認識しなかつたことは、久しく一般科学技術者の慨歎する所であつた。科学技術は工業の依つて以て立つ基盤であり、その基盤を培うものは研究である。基盤を尊重せざれば繁栄なく、基盤を培わざれば発展は望めない。安易な模倣によつて粗製濫造して世界の指彈を買うことを繰返しては日本の自立はいつの日に達せられるであろうか。

日本の止むを得ざる事情として集中生産は益々進められるであろう。技術的にも、組織的にも、経済的にも、経営的にも実力のある所に合理的な生産を集中することは当然の帰結でもあろう。併しその結果ただその企業体のみが利益を独占するに過ぎないならば、わが國の經濟再建に何程も役立つものではない。他の企業体の犠牲において生産を集中されたからには公的の責任と義務が生まれる。

その企業体は得たる利益によつて研究陣容を拡充し新しき工業の創造に向つて努力を傾けねばならぬ。斯くして新しき工業を興し多数の國民に職場を提供してこそ經濟再建に貢献し得るのである。

立ち遅れた工業水準の回復に必要な場合外國技術の導入を計つて然るべきである。併しこの場合にも單に導入した技術を後生大事に守つて利益だけを挙げているのでは能がない。日本の状態を充分検討した上でこれから研究し発展させるよりも、既存の方式を採用した方が時間的にもよいとの結論から導入した外國技術ならば「それを更に日本の事情に即する様發展させて經濟再建に積極的に寄與する基礎とすべきである。貴重な資金を投じたからにはそれだけの義務を負わねばならない。

### 3. 学会及び科学技術者について

わが國には各種の専門學術について數百の学会協會があり、工業に関するものだけでも數十の團體がある。それ等の團體では専門學術の研究発表などを行っているがその學術上の業績が徒らに眠らされているのに、その活用についての努力を怠つている。又研究業績を発表する科学技術者も單に発表することを以て終れりとせず、それを積極的に經濟再建に役立てるよう努力するだけの熱意が望ましい。

前記第1項及び第2項において政府、國會、企業経営者へ正しい理解を要望したが、科学技術が生産の量的質的向上を促進し、眞に國民福祉の基本力となるためには、科学技術を推進する当の科学技術者に対しても反省と奪起を望まねばならない。科学技術者が時に非常識であり經濟を解せず、人事の複雑性を把握せず、

専ら目前の個人的利害に支配され、その日の無事を希う偷安の氣風に陥るものが多いと指摘されるのは遺憾である。科学技術者が科学技術の推進に挺身せずして誰がこれを行うであろうか、例えば科学技術を最も有効適切に活用せねばならぬと認めたとき、職場技術者の總意を以てこれが実現を計る熱意と努力が望ましいのである。

更にわが國において基礎研究の実用化乃至工業化が甚だ低調であることの原因のうち、重要な一つとして協同精神の欠如を挙げることができよう。近代工業が一人の技術者の手によつて成ることは無く、あらゆる技術の総合を必要とすることは既に常識である。

併し技術の総合をもたらすものは人である。既存の諸技術を單に機械的に集めたからとて、新しい工業が成立するものではない。そこには諸々の技術者はもとよりあらゆる関係者がその工業を盛り立てんとする熱烈な協同精神と不屈の努力なくしてはできない。

特に資源に乏しく、國も狭く、そして人口の多い日本にとつて尙更その必要が痛感されるのに、実情はこれに反し、他人の功績を盛り立てるよりもむしろ逆にその抹殺に努力するようなことがあつてはならない。

### 4. 言論界について

既に述べたように基礎研究の成果はそのままでは經濟再建に役立たない場合が多く、その実用化までには技術上、設備上、經濟上、衛生保安上、原料入手上、はた又法規上その他幾多の困難を解決せねばならぬのが普通であつて、その間長年月を要することも少なくない。この困難の排除ができないために、我國の工業が進展を見なかつたのである。この事は國民一般に深く認識して貰いたい所である。元來思弁的なわれわれ日本人には、基礎事實の発見が直ちにその物的な具現化に導くかの様に錯覚する癖があり、過去のジャーナリズムも又これを助長したと見られるのである。ジャーナリズムが科学者の苦心研究に成る基礎事實の発見を採り上げるのはよい。併しその採り上げ方たるや多くの場合それが直ちに具現化するかの如き言辞を以てしたり一般的に科学的な取扱いに欠けていると思われる。そのために爲政者を誤り世人を惑わすことの害毒は誠に恐るべきものがあるといえよう。ジャーナリズムが誘示する所の「事實の報道」のためには、こと科学技術に関する限り科学的な取扱いが必要であることを改めて深く了解されたい。又同時に當の科学者、技術者もこの点に充分反省すべきであらう。

### 結 び

以上極めて抽象的に述べたに過ぎないが、われわれは問題を更に掘下げる努力を重ねて工業水準の引上げによる經濟再建への寄與をなさんとして発足するに當り広く社會の世論を喚起したく敢て所見を発表する次第である。